

1.はじめに

(1)ハイヅカ湖地域ビジョンとは？

中国地方のほぼ真ん中に位置するハイヅカ湖地域は、豊かな自然環境のもと人々が営々と積み上げてきた暮らしにより歴史、民俗、文化、人材に恵まれた地域が形成されてきました。

全国的に地域格差、中山間地域の過疎化・少子高齢化が進展する一方で、心の豊かさ、心の充実を実感できるいきいきとした暮らしなどを求めて地域への期待も高まっています。

そんな中、灰塚ダム建設により洪水や濁水に対する安全・安心が高まるとともに、広大な水面を有するハイヅカ湖が生まれました。今、ハイヅカ湖地域の生き活きとした未来に向けて、将来へのロマンを描き、柔軟で幅広い力の集結が必要となっています。

ハイヅカ湖地域ビジョンは、ハイヅカ湖地域の自立的・持続的な活性化を図り、今後の中山間地域をリードすべく、ハイヅカ湖地域の住民、行政、広域的な有志等、多様な人々がそれぞれの機能を活かして参画し、自主・自律したパートナーとして相互に連携・協力しながら、地域の重要な資源の一つである灰塚ダム・ハイヅカ湖を中心に「灰塚ダムによって生まれた資源を活かした「いきいき」のわ(和・輪・環)づくり」を目指し、目標・基本方針を共有して実行、実現を図ることを目的としています。



(2)ハイツカ湖地域ビジョン第1版の作成の経緯

平成19年11月～平成21年3月までの約1年半に渡って、ハイツカ湖周辺の住民のみなさん、取り組みに関心のある方々、学識者、三次市・庄原市、ダム管理者など、多様な主体の参画のもと、ハイツカ湖地域ビジョン準備会・委員会・分科会が開催されました。

さまざまな意見やアイデアを出し合い、協議を重ね、また、リーディング（試行的・先行的）プロジェクトを企画・実行する過程を経て、ハイツカ湖地域の中長期的な方向性や取り組みを段階的に決定していきました。

そして今ここに、ハイツカ湖地域ビジョン第1版が誕生します。

年月日	事柄	概要
平成19年11月29日	灰塚ダム水源地域ビジョン準備会	灰塚ダム水源地域ビジョンの進め方について、地域有志の方々による意見交換を実施。
平成19年12月19日	ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会①	「ハイツカ湖地域ビジョン」の名称及び趣意書を決定。また分科会のテーマについても承認。
平成20年1月28,31日	ハイツカ湖地域ビジョン分科会①	6つのテーマによる分科会を開催。地域の魅力や課題、将来像等について意見交換を実施。
平成20年2月13日	ハイツカ湖地域ビジョン分科会②	合同で分科会を開催。第1回分科会を踏まえ、分科会の目標や取り組みについて意見交換を実施。
平成20年2月29日	ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会②	分科会での意見交換を基本として基本方針案について協議。事務局にて修正後、公表することを承認。
平成20年3月	基本方針（試行版）公表	ハイツカ湖地域ビジョン試行版を公表。
平成20年6月27日	ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会③	ハイツカ湖地域ビジョン試行版に対して集まったパブリックコメントについて、H20年度の取り組み及びスケジュールについて協議。
平成20年7月8日	ハイツカ湖地域ビジョン分科会③	合同で分科会を開催。各分科会のテーマに沿ってH20年度のLPの企画について意見交換を実施。
平成20年11月0日	ハイツカ湖地域ビジョン分科会④	合同で分科会を開催。H20年度の夏季LPの振り返り、秋季LPの企画、各分科会の今後の行動メニュー、ビジョン全体像等について意見交換を実施。
平成21年1月0日	ハイツカ湖地域ビジョン分科会⑤	H20年度の取り組み全体の振り返り、各分科会の今後の行動メニューについて意見交換を実施。
平成21年2月0日	ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会④	分科会での意見交換を基本としてビジョン第1版について協議。事務局にて修正後、公表することを承認。
平成21年3月	ビジョン第1版公表	ハイツカ湖地域ビジョン第1版を公表。



第1回分科会の様子



第2回分科会の様子



第3回分科会の様子

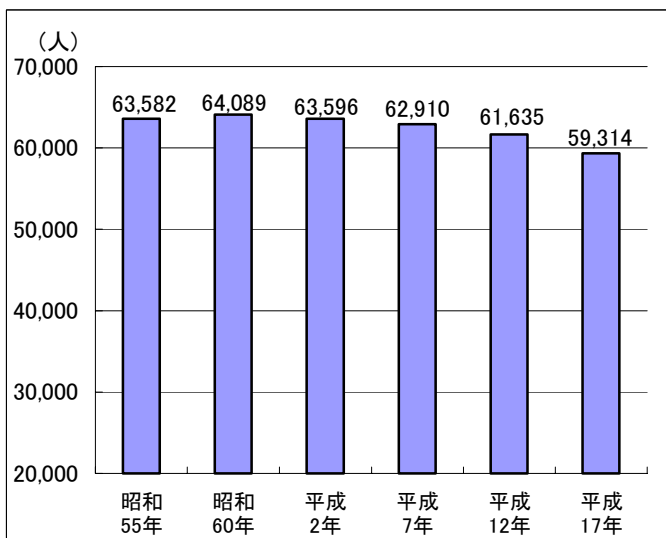
(2) 時代を先取りするハイツカ湖地域

三次市の人口は最近 25 年間で約 4,500 人（平成 17 年現在：59,314 人）、庄原市は 10,000 人以上の減少（平成 17 年現在：43,149 人）傾向をたどっています。

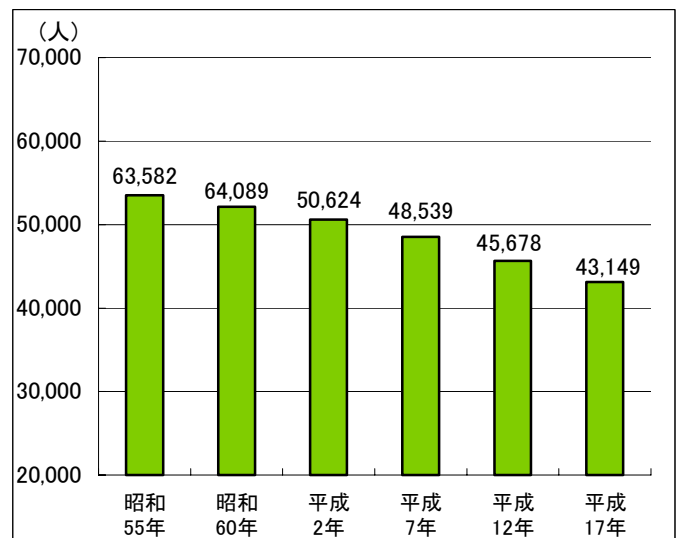
また、平成 17 年の広島県及び全国の年齢階層別人口割合をみると、老年人口の占める割合はともに 20%強であるのに対し、三次市は約 30%、庄原市は約 36%に上ります。

ハイツカ湖地域は、人口減少の加速化が全国よりも 10～15 年早く進んでいると言われています。このような状況下で、地域の方々が主体となって、ハイツカ湖を活用したウォーキング大会など、活性化に向けた行事・催しなどが取り組まれています。

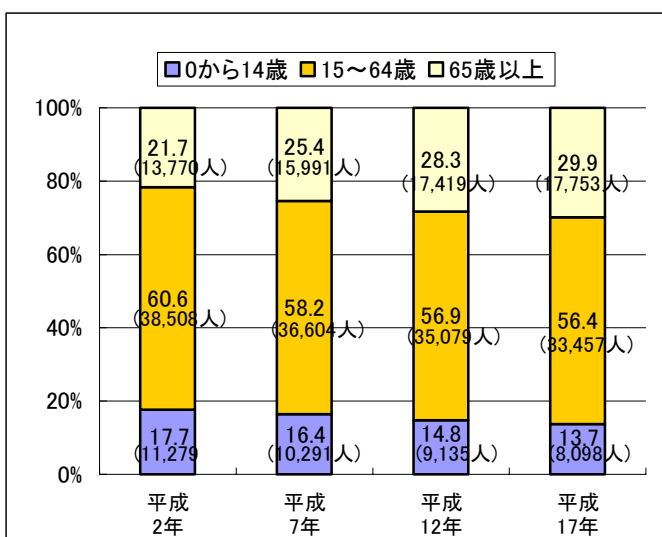
（※すべて合併後の新市で換算）



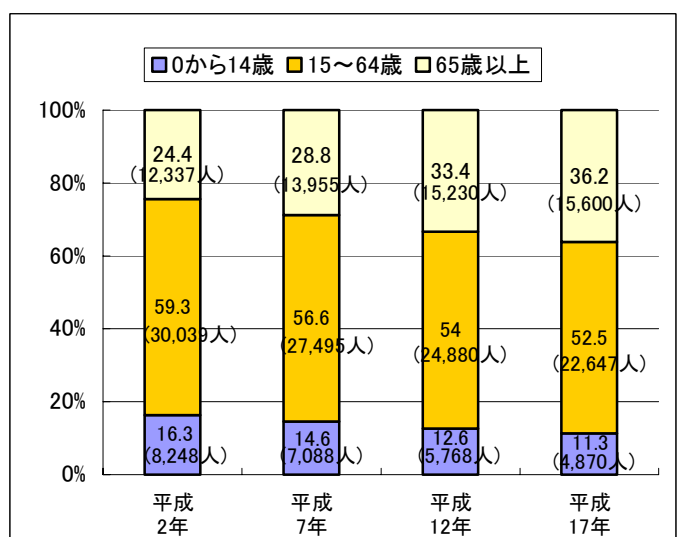
三次市の人口推移



庄原市の人口推移

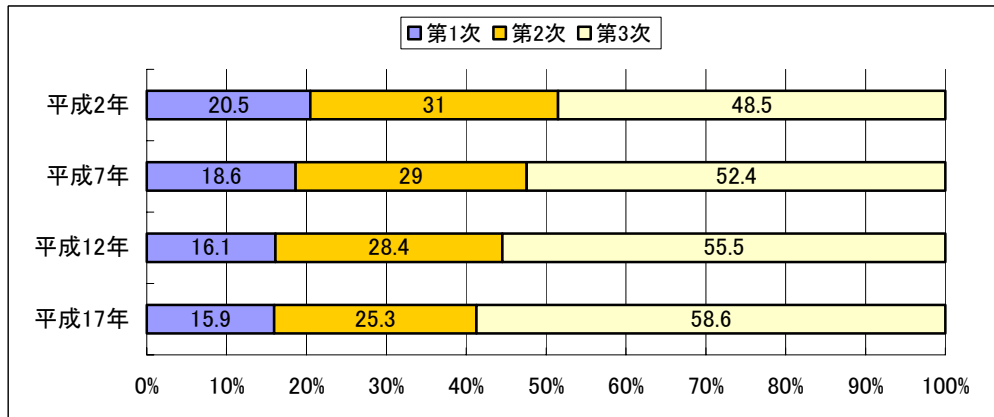


三次市の年齢階層別人口割合の推移

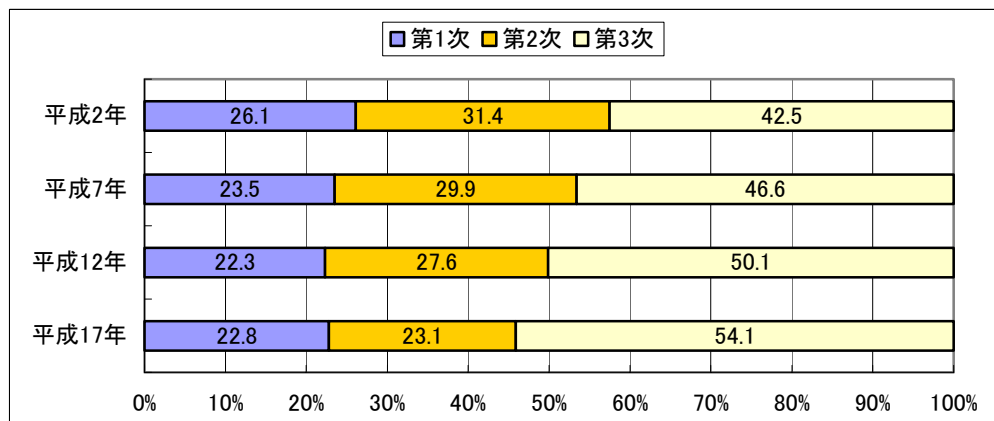


三次市の年齢階層別人口割合の推移

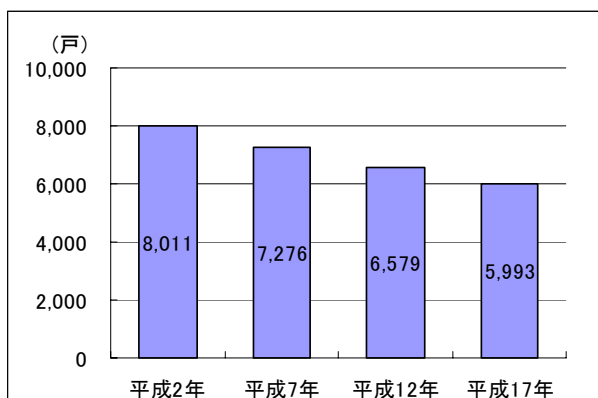
第1次産業の割合は三次市 15.9%、庄原市 22.8%で全国及び広島県を大きく上回り、特に農業の割合が高くなっています。しかし、少子・高齢化、後継者不足から、総農家数も減少傾向にあります。第2次産業で医療・福祉業が全国及び広島県を上回っているのは、高齢化に対応したサービスが他地域より進んでいるからだと考えられます。第3次産業については、広島県の68.0%に対して三次市 58.6%、庄原市 54.1%と低くなっており、人口減少や少子・高齢化で需要が減っていることが伺えます。



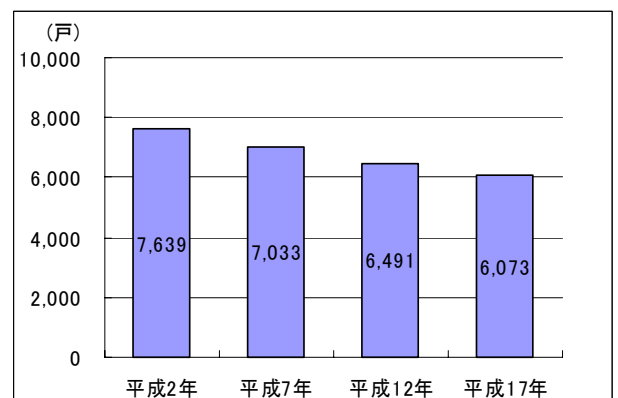
三次市の産業別人口割合の推移



庄原市の産業別人口割合の推移



三次市の総農業家数の推移



庄原市の総農業家数の推移

(3) 恵まれた立地条件と周辺施設

三次市、庄原市周辺では古くから人々の暮らしが営まれており、三次盆地は広島県内で最も多い3～4千の遺跡や古墳が点在し、広島県立みよし風土記の丘や県立歴史民族資料館等で郷土の足取りを辿ることができます。庄原市にも、8千～1万年前の古代住居といわれる帝釈峡の岩陰遺跡等、考古学上重要な史跡が現存しています。また、花園、果物農園のほか、備北丘陵公園、奥田元宋・小由女美術館などの観光資源があります。

さらに、ハイツカ湖地域には「ハイツカ湖畔の森」や「田総の里スポーツ公園」をはじめ、「なかつくに公園」などの自然を活かした施設もあり、四季折々の花を見学できる場所も点在します。さらに、湖畔では釣りやキャンプを楽しむ人が増加しています。

平成19年度の利用者数は約20,000人で、昨年度に比べやや増加傾向にあります。

●歴史



●文化



●ダム湖周辺施設



(4)ハイヅカ湖地域の暮らし

ハイヅカ湖地域の各自治会では、各地の特色に応じて、カタクリ祭り、節分草祭り、ホタル祭り、夏祭り、秋祭りやパークゴルフ・グラウンドゴルフ大会など、地域の方々が自らの地域を楽しむ姿が見られます。



カタクリ祭り(H15. 4)



「お茶しましょ」(初夏)



節分草祭(H18)



夏祭り(H17. 9)



おいでん祭り(H16. 10)



とんど祭り(H17. 1)



知和神社の秋祭り(平H16. 11)



グラウンドゴルフ大会(H20)

(5) 灰塚ダム・ハイヅカ湖

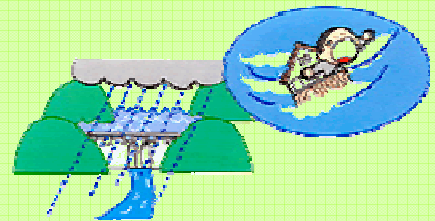
灰塚ダムの主な役割は、ダム下流の人々の命・財産を洪水から守ること、三次市と庄原市にそれぞれ日量 10,000 トン、5,000 トンの水道水・農業用水を供給することのほか、下流の河川水が不足する場合に環境用水を放流し、ダム下流の環境を改善する機能も備えています。加えて、人工湿地としては日本最大規模（約 70ha）である知和ウェットランドも新たな水辺環境を創出し、平成 17 年に国特別天然記念物のコウノトリが飛来したことも有名になりました。



灰塚ダムの役割

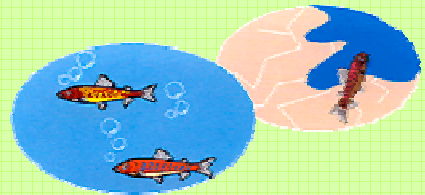
■ 洪水調節

洪水調節とは、ダム貯水池に水を貯めて、大量の水が川に流れすぎないように調節することです。灰塚ダムは、ダム貯水池における洪水流量 $1,150\text{m}^3/\text{s}$ のうち、 $750\text{m}^3/\text{s}$ の洪水調節を行い、ダム下流（江の川上流部や馬洗川沿川）の水害を防除します。



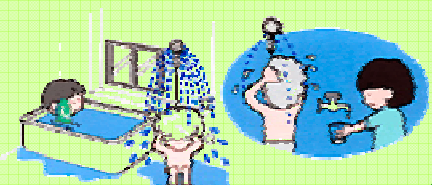
■ 既得取水の安定化及び河川環境の保全

渇水時等の河川水の流量が少ない時に、ダムから貯水池の水を放流して、河川水の流量を確保し、ダム下流の江の川や馬洗川沿川の耕作地等の用水取水のための安定化や河川環境の保全を図ります。



■ 水道水の供給

三次市、庄原市における水道水の需要増に対応するため、ダムにより水を供給することで新たに $15,000\text{m}^3/\text{日}$ の取水を可能にします。



3. ハイヅカ湖地域ビジョン 基本方針(案)

ハイヅカ湖地域ビジョン基本方針(案)は、「ハイヅカ湖地域ビジョン推進委員会」及び「ハイヅカ湖地域ビジョン分科会」での意見交換やアイデアを基に作成したものです。

ハイヅカ湖地域ビジョン基本方針(案)

灰塚ダムによって生まれた資源を活かした

「いきいき」の“わ”づくり

(1) なごみのふるさとづくり

和

理想の地域「理想都」を目指し、ハイヅカ湖地域の人々が楽しく誇りを持って暮らすとともに、訪れる人々を歓迎しつつ、ハイヅカ湖地域を自慢できるようにします。また、ハイヅカ湖周辺の環境や施設等を活用した健康や福祉に取り組み、地域の持続的な維持を推進します。

(2) 里湖をつなぐネットワークづくり

輪

ハイヅカ湖や周辺の里山などの地域資源を最大限に活かすために、素敵な自然、営み地域の人々や広域的な有志、行政等をつむぐネットワークをつくります。また、江の川流域に加え、中国地方のほぼ中央に位置するハイヅカ湖地域は、他地域との交流を促進します。

(3) 自然との共生を知り、学ぶ里湖づくり

環

ハイヅカ湖地域の里山やハイヅカ湖のウェットランド等の環境と循環を守り、地域の自然や里湖の魅力を、先ず地域が深く理解し郷土愛を育むとともに、より多くの方々にハイヅカ湖地域から学ぶ機会・活動を提供し、湖域を丸ごと「里湖博物館」として活かしていきます。

(4) 情報、人材、経済などが力強く回る、

安定した暮らしの基盤づくりを目指して

回

灰塚ダムによりダム下流地域の安全・安心な暮らしを守るとともに、ハイヅカ湖地域の暮らしの活性化に向け、地域情報を提供・発信していきます。また、ハイヅカ湖地域での安定した働き場の拡大に向け、ハイヅカ湖や里山の活用の促進、地域リーダーとなる次世代を含めた人材育成のシステムづくりを行います。さらには各取り組みの相乗効果を高めるため、各取り組みの連携を図ります。

取り組みテーマ

ハイヅカのきれいを味わう

日本一の里山づくり

ぐるっとハイヅカ

健康・福祉のメッカ

里山の自然博物館

取り組みの基盤をつくる

・地域情報の提供・発信

・人材育成のシステムづくり

4. ハイツカ湖地域ビジョン 実施方針(案)

(1)基本的な進め方

ハイツカ湖地域ビジョンは、以下に示す実施方針に基づいて実施していくこととなります。

1) 地域の合意形成による実行プロセス

ハイツカ湖地域ビジョンの取り組みは、各分科会または実行組織を中心として、企画及び実施していきますが、ハイツカ湖地域の合意は、取り組みの実施に不可欠です。

自治振興区連絡協議会や三次市及び庄原市の支所等の関係機関との連携を図りながら、適切に情報を発信し、地域との合意形成による実行プロセスを基本とします。

2) まずは“やりたいこと”、“取り組みやすい”ものから

ハイツカ湖地域ビジョンの取り組みは多岐に渡っています。いずれの取り組みも目的や熱意を持って立案されたものですが、全てを一度に実行することは難しく、また、継続して実施することができなくなってしまいます。

よって、取り組みメニューについては、基本的に“すぐにでもやりたいもの”、“取り組みやすいもの”から実施していくことが肝要になります。取り組みメニューの実行については、その重要性や緊急性を鑑みながら、地域のニーズやとっつきやすさなどの面からも協議した上で、優先順位を設定していきます。

3) 身の丈に合った取り組み

ハイツカ湖地域ビジョンの取り組みは、多様な主体の参画による実施が重要となります。しかし、取り組みを実施することによって、かえって地域が疲弊してしまうようでは、取り組む意味が薄れてしまいます。

そこで、ハイツカ湖地域ビジョンの取り組みメニューは、まず、地域の実情に応じたものから実施していくものとします。

4) スパイラルアップの仕組み

魅力・活力ある地域に発展していくためには、ハイツカ湖地域ビジョンの取り組みを継続的に実施することが肝要です。その際、その取り組みにはどんな効果があり、どう評価されたのかを把握することが重要です。検証プロセスの中で、課題や改善点を見出し、次の取り組みへとつなげていくことで、持続的な発展が期待できます。

そこで、ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会を、取り組みの検証機関と位置づけ、スパイラルアップの仕組みづくりを行うとともに、各取り組みへのサポートやアドバイスを行います。

5. ハイヅカ湖地域ビジョン 実施内容(案)

(1)ハイヅカ湖地域ビジョン 実施メニュー

取り組みテーマ	リーディングプロジェクト	その他の実施メニュー
ハイヅカの きれいを味わう	①ダム湖周辺の整頓 ②それもごちそう ③つながりをつくる ④大谷地区ガードレールのデザ インペイント	<ul style="list-style-type: none"> ・里山の手入れ ・地元大豆の味噌づくり ・兼業の促進 ・安全な農作物づくり ・美味しいものをみんなで食べ教える ・伝統文化に誇りをもつ(神楽、盆踊り等) ・写真・絵はがきコンテストを継続する ・都市部・他地域の人とのコミュニケーション ・ハイヅカの情報をネットで配信したり、新聞、TV、ガイド本等でPR ・行政とタイアップして空き家等を利用した住民移住計画の推進
日本一の 里山づくり	①ハイヅカを知り、ビューポイントに名前をつける「探湖会」を開く ②雑草、かずらなどを取り除くだけでなく、利用し楽しむ野の花(山野草)を輝かす会を開く ③「里山の達人」になる・を発掘する・を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ・自給自足を売りにした宿泊所を作る ・ハイヅカ湖へバスツアーで都市から来てもらう ・青空教室を開く ・地域の人が株主になって地産地消の場をつくる ・何時でも湖水面が見えるようにする
ぐるっと ハイヅカ	①えっとハイヅカ マップづくり ②もっとハイヅカ おもしろ施設づくり ③わっとハイヅカ 抱きしめてハイヅカ湖(仮称) ④空心菜を用いた笑湖(エコ)プラ ント実験	<ul style="list-style-type: none"> ・スローライフの体験 ・Iターンの促進 ・松茸再生 ・森林保護 ・地域の方が参画できる物産館 ・ハイヅカオリジナルの発信や開発

取り組みテーマ	リーディングプロジェクト	その他の実施メニュー
健康・福祉の メッカ	①マップづくり(歴史・自然・木陰・ウォーキング・水遊び・魚釣り穴場) ②老若男女・万人のための健康スポーツ企画(車椅子ウォーキング・(電動カー)ハイキング・マラソン・ウォーキングなど) ③ニュータイプの福祉の家・湖域構想	<ul style="list-style-type: none"> ・パークゴルフ、グラウンドゴルフ、ハイキング等の定期的な実施 ・水上サッカー場をつくる ・運動公園周囲の3S(整理、整頓、掃除) ・季節毎のウォーキング(花、木、紅葉鳥の時期) ・電動スクーター教習所、運動療法への活用 ・新スポーツ“草(くさ)レチック”大会の開催 ・つけもの(自然、健康食、ブルーギルずし)レストランの開店
里山の 自然博物館	①ブッポウソウの巣箱用支柱の設置と巣箱かけ ②近隣の小学校によびかけて定期的な自然観察会の開催 ③周辺自治会との協力による苗づくりと植樹会(ドングリ、モミジ、実もの)	<ul style="list-style-type: none"> ・コウノトリの住む環境作り ・環境センターの設立 ・紅葉林を多くする ・ネットによるPR ・ウェットランドの予算獲得 ・人の手を入れない環境づくり ・ファンクラブ定期集会

(2)ハイヅカ湖地域ビジョン 実施スケジュール

取り組みテーマ	メニュー	主な実施主体	1～3年	1～5年	1～10年	備考
ハイヅカの きれいを味わう	①ダム湖周辺の整頓	第1・4分科会 / 地域 / 自治体 / ダム管理者		◎		
	②それもごちそう	第1・4分科会 / 地域 / 自治体		◎		
	③つながりをつくる	第1・4分科会 / 地域 / 自治体 / 行政			◎	
	④大谷地区ガードレールのデザインペイント	第1・4分科会 / 地域 / 自治体 / 学校・教育機関 / ダム管理者	◎			
日本一の里山づくり	①ハイヅカを知り、ビューポイントに名前をつける「探湖会」を開く	第2分科会 / 地域 / ダム管理者	◎			
	②雑草、かずらなどを取り除くだけでなく、利用し楽しむ野の花(山野草)を輝かす会を開く	第2分科会 / 地域 / 自治体		◎		
	③「里山の達人」になる・を発掘する・育てる	第2分科会 / 地域 / 自治体 / 学校・教育機関 / 広域的な有志 / 行政 / ダム管理者		◎		
ぐるっとハイヅカ	①えっとハイヅカ マップ・ガイドづくり	第2・3・5分科会 / 地域	◎			
	②もっとハイヅカ おもしろ施設づくり	第3分科会 / 地域 / 行政 / ダム管理者		◎		
	③わっとハイヅカ 「抱きしめてハイヅカ湖(仮称)」	「抱きしめてハイヅカ湖(仮称)」実行委員会 / 地域 / 自治体 / 広域的な有志 / 行政 / ダム管理者	◎			
	④空心菜を用いた笑湖(エコ)プラント実験	「空心菜笑湖プラント実行委員会(仮称)」 / 地域 / 広域的な有志 / ダム管理者		◎		
健康・福祉のメッカ	①マップづくり(歴史・自然・木陰・ウォーキング・水遊び・魚釣り穴場)	第2・3・5分科会 / 地域	◎			
	②老若男女・万人のための健康スポーツ企画 (車椅子ウォーキング・(電動カー)ハイキング・マラソン・ウォーキングなど)	第5分科会 / 地域 / 自治体 / 行政	◎			
	②ニュータイプの福祉の家・湖域構想	—				
里山の自然博物館	①ブッポウソウの巣箱用支柱の設置と巣箱かけ	第6分科会 / 地域 / ダム管理者	◎			
	②近隣の小学校によびかけて定期的な自然観察会の開催	第6分科会 / 地域 / 学校・教育機関 / ダム管理者		◎		
	③周辺自治会との協力による苗づくりと植樹会 (ドングリ、モミジ、実もの)	第6分科会 / 地域 / 自治体 / 学校・教育機関 / ダム管理者		◎		

(3)ハイヅカ湖地域ビジョン 実施メニューの内容

1) ハイヅカ湖地域ビジョンのリーディング・プロジェクト (先行的試行プロジェクト)

①大谷地区ガードレールのデザインペイント

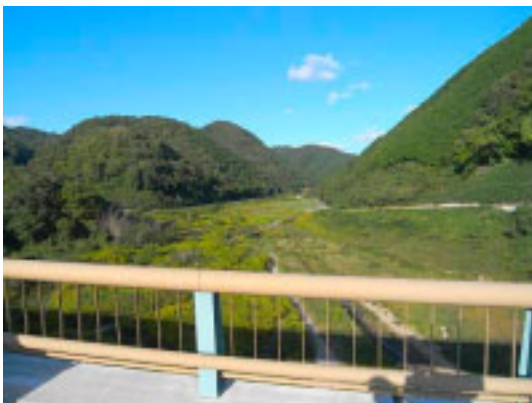
ハイヅカ湖周辺は、アースワークの活動が展開されたこともあって、芸術作品が地域各所に点在するとともに、ガードレールについてもアースカラーで統一する取り組みが実施されました。しかし大谷地区は通常の白色のガードレールであるため、ガードレールをデザイン塗装し、一体としての景観づくりが望まれています。

そこで、大谷地区のガードレールのデザインに向けたワークショップを開催し、デザイン塗装を実施します。

【実施内容・実施方法】

- (a) 芸術系の高校生や大学生等との協働によるデザイン企画・塗装
 - ・芸術系の高校生や大学生等の参画を呼びかけ・募集し、若者たちと地域が一緒になって、配色やデザインの企画を作ります。
 - ・若者たちと地域の参加によるガードレールのデザイン塗装を実施します。
- (b) アースワーク作品の地域ガイド
 - ・上記取り組みと連携して、ハイヅカ湖周辺に点在するアースワーク作品について、地域でガイドし、高校生や大学生等と一緒に地域を見つめ直し、地域の魅力について考えます。
 - ・アースワーク作品の地域ガイドを定着させ、ハイヅカ湖地域を訪れた方々に積極的にガイドし、地域の魅力をPRしていきます。
 - ・併せて、アースワーク作品のガイドブックを作ります。

実施年次	平成 20 年度～平成 22 年度	実施主体	第 1・4 分科会、地域、学校等
実施手法	平成 20 年度 学生・地域への呼びかけ、デザインワークショップの開催 平成 21 年度 塗り替えの実施、アースワークの地域ガイド育成・試行 平成 22 年度 アースワークの地域ガイドの実施		



②ハイヅカええと湖探し

ハイヅカ湖周辺は、里山環境が広がっています。里山は地域の暮らしと密接した場所であるとともに、その環境には多くの動植物が生息・生育しています。しかし、地域の過疎化や少子高齢化が進行しており、里山の手入れ等の担い手が不足し、里山の荒廃が進んでいます。

そこで、まずはハイヅカ湖地域の方々に失われつつある里山の魅力を伝えるために、ハイヅカ湖地域の魅力を探しマップにする“ハイヅカええと湖探し”を実施します。

【実施内容・実施方法】

(a) ハイヅカええと湖探し

- ・ハイヅカええと湖探しと称し、ハイヅカ湖地域への参加を呼びかけつつ、ハイヅカ湖周辺の魅力の収集を実施します。魅力の収集にあたっては、湖面からの目線や、夜や朝の景色、四季の変化など、時々に変わり行く姿をさまざまな切り口から捉えます。
- ・収集した魅力の情報は、マップとして整理し、ハイヅカ湖地域に配布するとともに、ハイヅカ湖地域を訪れる方々にも利用できるようにします。
- ・マップを活用し、今後、里山環境を保全するためにできることを、分科会及びハイヅカ湖地域、関係機関等と協議していきます。

実施年次	平成 20 年度～平成 21 年度	実施主体	第 2 分科会
実施手法	平成 20 年度 ハイヅカええと湖マップの作成 平成 21 年度 里山環境の保全のための取り組み（分科会等の開催）		



③空心菜笑湖プラント

ハイヅカ湖地域には、当然ながら、広大なハイヅカ湖の水面が存在します。この貯水池を上手く活用して、地域の活性化や地域振興に結びつけようという目的で、中国野菜の「空心菜」の水耕栽培を実施します。空心菜は栄養価が高いとされ、また日本ではあまりなじみのない食材であるために、ブランド化も視野に入れて特産品化を検討します。さらに空心菜は栄養吸収力が強いとされており、ハイヅカ湖の水質浄化への貢献も期待できます。

【実施内容・実施方法】

(a) 空心菜笑湖プラント実行委員会(仮称)の設置

- ・空心菜笑湖プラントの設置及び空心菜の試験栽培に向けた企画・調整機関として実行委員会(実行組織)を設置します。実行委員会には地域からの参画を募ります。

(b) 空心菜の試験栽培

- ・上記、実行委員会にて、プラントの位置、規模、栽培方法、管理などについて協議し、具体的なプランを作成します。
- ・試験栽培プランに基づき、実行委員をはじめ、各主体の参画を促し、試験栽培を実施し、生育状況、商品価値(味、臭い、食感、見た目など)を検証します。

(c) 特産品化に向けた検討

- ・ハイヅカ湖ならではの特産品化を目指すために、生産方法やレシピ、パッケージング(ネーミング等販促企画)、品質分析等の検討を行います。

実施年次	平成 20 年～平成 22 年度	実施主体	笑湖プラント実行委員会(仮称)
実施手法	平成 20 年度 空心菜笑湖プラント実行委員会(仮称)の設置及び企画会議の開催 平成 21 年度 空心菜の試験栽培 平成 22 年度 特産品化に向けた検討		



④「抱きしめてハイヅカ湖（仮称）」

ハイヅカ湖地域をたくさんの方に知っていただくとともに、地域コミュニティの活性化を目的として、「抱きしめてハイヅカ湖（仮称）」を実施します。「抱きしめてハイヅカ湖（仮称）」とは、たくさんの方にハイヅカ湖を訪れてもらい、ぐるっとハイヅカ湖を囲もうというアイデアです。

ハイヅカ湖を核にして、ハイヅカ湖地域の連携、ハイヅカ湖地域と他地域、さまざまな人とのネットワークを促進するとともに、このプロセスを通じて地域の成長が期待されます。

【実施内容・実施方法】

(a)「抱きしめてハイヅカ湖（仮称）」実行委員会の設置

・「抱きしめてハイヅカ湖（仮称）」を具体的に進めていくために、有志による実行委員会（実行組織）を設置します。実行委員会では、「抱きしめてハイヅカ湖（仮称）」の進め方や企画、連絡調整などを行います。

(b)「抱きしめてハイヅカ湖（仮称）」の企画会議及びイベントの実施

・上記、実行委員会にて、具体的な進め方などについて協議し、具体的なプランを作成します。
・ハイヅカ湖をぐるっと囲む本番に向けて、ハイヅカ湖地域をPRし、取り組みを周知するために、イベントを定期的実施していきます。

(c)「抱きしめてハイヅカ湖（仮称）」の実施

・上記プロセスを経て、2010年を目標に、抱きしめてハイヅカ湖（仮称）を実施します。

実施年次	平成 20 年度～平成 22 年度	実施主体	笑湖プラント実行委員会
実施手法	平成 20 年度 「抱きしめてハイヅカ湖（仮称）」実行委員会の設置及び企画会議の開催 平成 21 年度 イベントの開催 平成 22 年度 「抱きしめてハイヅカ湖（仮称）」の実施		



⑤福祉と健康マップづくり

少子高齢化が進行するハイヅカ湖地域においては、いきいきとした生活、活力あるコミュニティを維持していくためには、健康づくりが不可欠です。また、ハイヅカ湖地域を支えていくための福祉も重要です。ハイヅカ湖では、毎年、健康ウォークやハイヅカ湖マラソンなどが開催され、地域の関心も高く、ウォーキングなどが盛んです。

ハイヅカ湖を囲む道路は周回でき、また、ハイヅカ湖のビューポイントがたくさんあることから、ハイヅカ湖の景色を楽しみつつ、健康づくりに向けたウォーキングやマラソンマップを作成します。

【実施内容・実施方法】

(a) 福祉と健康マップの作成

- ・福祉と健康をテーマに、ハイヅカ湖地域のお勧めウォーキングコースやマラソンコースなどをマップにします。
- ・マップには、単なるコースではなく、ハイヅカ湖の見所などを掲載するとともに、距離＋カロリー表示など、楽しく健康づくりに取り組めるような工夫を検討します。

(b) マップを活用した健康・福祉の取り組み

- ・福祉と健康マップを活用し、ハイヅカ湖地域の方々が気軽に健康づくりに取り組むためのウォーキング企画、距離票の設置などを検討します。

実施年次	平成 20 年度～平成 21 年度	実施主体	第 5 分科会
実施手法	平成 20 年度 福祉と健康マップの作成 平成 21 年度 マップを活用した健康・福祉の取り組みの実施		



⑥ ウェットランド団の環境学習

ハイヅカ湖には、ダム湖の水質浄化と湿地環境の創出を目的としたウェットランドがあります。ウェットランドには、多様な生物が生息・生育しているとともに、自然環境を身近に学べる場所です。しかしながら、ハイヅカ湖地域をはじめ、周辺地域でもあまりその存在が認知されていません。

ウェットランドが有する自然のポテンシャルを活用し、ハイヅカ湖を優れた環境学習の場として広く認識いただくために、ウェットランドの応援団である“ウェットランド団”による環境学習を実施していきます。

【実施内容・実施方法】

(a) ウェットランド団の募集及び勉強会の開催

- ・ウェットランド団は現在のところハイヅカ湖地域の有志により結成されていますが、今後も広く参加を呼びかけ、ウェットランド団の増員を図ります。
- ・ウェットランド団が環境学習や体験活動等で安全に楽しく指導できるよう、各種勉強会（動植物、指導法、安全管理等）を開催します。

(b) ウェットランド団による「ウェットランド笑湖学校」の開催

- ・ウェットランド団による環境学習や体験活動を「ウェットランド笑湖学校」と称して、年間を通じて、定期的に環境学習会や体験活動の機会を提供していきます。
- ・近隣の小学校、三次市・庄原市の中学校や高校に呼びかけ、定期的な観察会や環境保全活動等を展開していきます。

実施年次	平成 20 年度～平成 22 年度	実施主体	ウェットランド団、第 6 分科会
実施手法	平成 20 年度 ウェットランド団の結成及び勉強会の開催 平成 21 年度 ウェットランド笑湖学校の実施 平成 22 年度 近隣の小学校や中学校、高校と連携した環境保全活動等の実施		



(4)ハイツカ湖地域ビジョンのレビュー計画

ハイツカ湖地域ビジョンの実行においては、それぞれの取り組みの進捗やその評価及び課題・改善点を適宜チェックしながら、それぞれの取り組みにフィードバックすることが重要です。このプロセスの中で、改善できるところは改善し、さらに新たな展開が必要な際は、改めて実施方針に則り進めていくことが肝要です。また場合によっては中止すべきものを検証する必要があるかも知れません。

このように、立てた計画（ハイツカ湖地域ビジョン）を適宜見直し（レビュー）、その取り組みや計画そのものを、スパイラルアップ（計画 ⇒ 実行 ⇒ 検証 ⇒ 改善 ⇒ 計画の見直し ⇒ 実行・・・）によって、より良いものへ高めていきます。

1) レビューの時期

ハイツカ湖地域ビジョン及びそれぞれ実施される取り組みについては、必要に応じて適宜、見直し（レビュー）を行います。基本的には1年に1回、取り組み状況の確認を行っていきます。

2) レビューの実施主体

ハイツカ湖地域ビジョンやその取り組みの見直し（レビュー）は、ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会において行います。ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会では、それぞれの取り組み状況を確認するとともに、それぞれの取り組みに対して支援・助言・協働します。また、必要に応じて計画の見直しや改善などの提案を行います。

3) レビューの実施手法

①取り組み状況の確認

ハイツカ湖地域ビジョンの各取り組みにおいて、それぞれの実施主体から活動状況について、ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会に情報提供いただきます。特に、催し物やイベント、学習会等が開催される場合には、その情報を提供いただきます。

（報告：各実施主体、収集：ハイツカ湖地域ビジョン事務局）

②ハイツカ湖地域ビジョン推進委員会の開催

基本的には1年に1回、同委員会を開催し、それぞれの取り組み状況について提供いただいた情報を基に、ハイツカ湖地域ビジョンと照らし合わせ、同委員会からの支援・助言・協働について協議します。

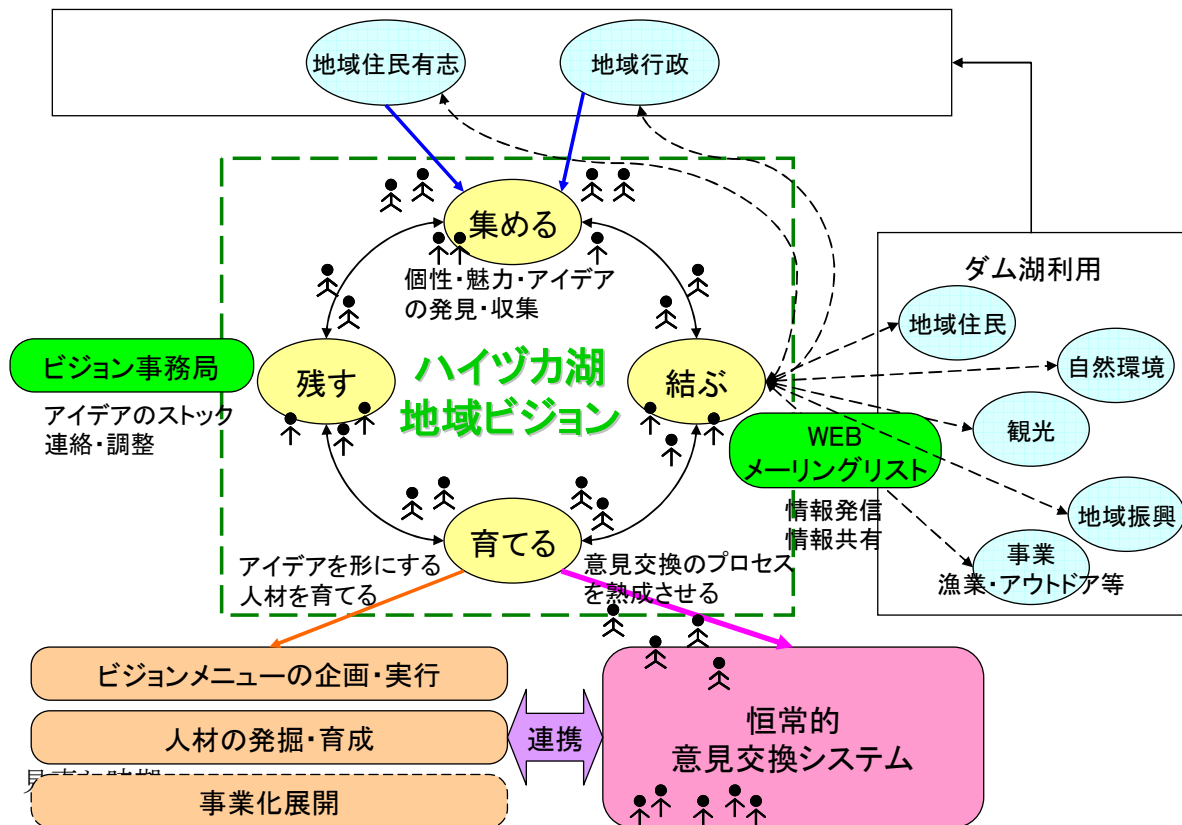
また定期開催とは別に、取り組みの各段階に応じて、同委員会を開催し、助言・改善・見直し等の提案を行います。

③適切な情報共有

ハイツカ湖地域ビジョンの取り組み状況を共有し、誰からも意見や提案ができるように、ホームページでの情報提供を行います。

4) スパイラルアップのための仕組みづくり

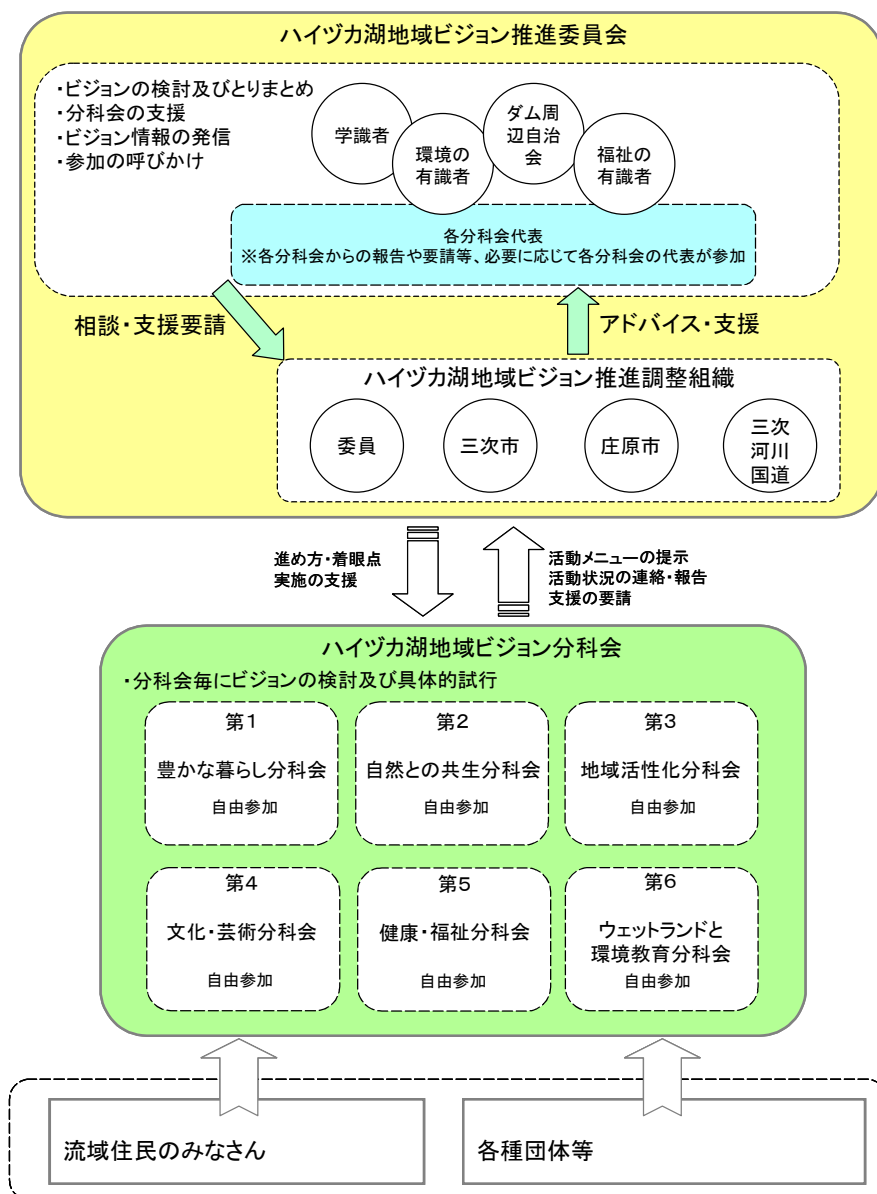
ハイヅカ湖地域ビジョンの推進にあたっては、上記のレビューが適切に実施され、また、改善策や提案が計画や実行に反映されるようにするために、スパイラルアップのための仕組みづくりを行います。



6. ハイヅカ湖地域ビジョンの推進体制

ハイヅカ湖地域ビジョンの取り組みは、参加するみなさんが中心となって進みます。分科会ではワークショップ形式での意見交換や具体的な活動を行っていきます。“たのしく、なごやかに”をモットーとして、わいわい・がやがやとハイヅカ湖地域の今、これからのことを話し合い、将来に向けた取り組みを行っていきます。

時には、食文化交流としての試食会や、地域の魅力探しとしての地域資源見学会、など、みなさんと工夫を凝らしながら、楽しみながら取り組みを実施していきます。



ハイヅカ湖地域ビジョン推進委員会 委員構成

敬称略

○ 中越 信和	有識者	広島大学国際環境協力プロジェクト研究センター長 教授
立石 雅哉	ダム周辺自治会	仁賀振興会 会長
多留 正弘	ダム周辺自治会	安田自治振興会 会長
今井 秀明	ダム周辺自治会	のぞみが丘運営協議会 会長
和田 芳治	ダム周辺自治会	木屋地区自治振興区 区長
山根 京司	ダム周辺自治会	稲草西自治振興区 区長
前川 俊清	教育	県立広島大学 生命環境学部 准教授
金沢 成三	自然・教育	比婆科学教育振興会 会長
岩水 正志	自然	灰塚ダム知和ウェットランド フレントリ館 館長
熊原 保	福祉	社会福祉法人総領福祉会 理事長
湧田 法恵	行政機関	三次市 三良坂支所長
久保田 隆義	行政機関	三次市 吉舎支所長
永田 修治	行政機関	庄原市 総領支所長
西村 元次	行政機関	国土交通省 中国地方整備局 三次河川国道事務所 所長

○委員長

ハイヅカ湖地域ビジョン分科会 構成

分科会	テーマ
第1・4分科会	豊かな暮らしと文化・芸術 生き生きとした豊かな暮らし、趣味や文化・芸術等の共有ネットワークなどについて
第2分科会	自然との共生 ハイヅカ湖周辺の自然や里山環境と人との関わりなどについて
第3分科会	地域活性化 兼業農家の活性化、特産品や地域ブランド作り、イベント企画などについて
第5分科会	健康・福祉 ハイヅカ湖周辺施設等を利用した健康増進・福祉・スポーツなどについて
第6分科会	ウェットランドと環境教育 ウェットランドの環境保全と、ウェットランドを活用した環境教育や体験学習などについて

※地域の方々や関心のある有志の自由参加で、分科会を開催しています。分科会はどなたでも参加できます。

ハイツカ湖地域ビジョン（第 1 版）

平成 21 年 3 月

©2009 Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

ハイツカ湖地域ビジョン事務局

（国土交通省 三次河川国道事務所 灰塚ダム管理支所内）

〒729-4302 広島県三次市三良坂町仁賀 1 5 7 5

Phone.0824-44-4360 Fax.0824-44-3544

ハイツカ湖地域ビジョンWEB <http://www.haizuka.net>

